

縄南道通信



平成30年 11月1日 発行

2018年度 第7号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

くすは縄手南校 横小路校舎

日比野 功

東大阪市立義務教育学校くすは縄手南校区教育理念

～縄南道による～二十歳の成人式に



当たり前前の行動を当たり前前に実行できる人の育成

「君たち凄いなあ」「当たり前じゃないですか」という笑顔の会話

縄手南の教育理念は「～縄南道による～二十歳の成人式に当たり前前の行動を当たり前前に実行できる人の育成」です。「縄南道」とは「人格形成」を柱とした縄手南校区における教育活動全般を示す言葉です。つまり「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」という「勝因」を磨き、「いい加減」「適当」「だいたい」という「敗因」を創造しないように心がけ前進することです。さらにモットーである「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を常に意識し、「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を「習慣」として身につけることです。「当たり前」という感覚は磨けば磨くほど輝きを放ちます。日常の行動や習慣、環境によっても「当たり前」の感覚は変わってきます。例えば、いつも履物をきちんと揃えていたら、あるいは小さい頃から履物を揃える習慣が身につけていたら、揃えられていない履物を見た時は違和感が生じます。制服のボタンをいつもきちんと留めていれば、何かの拍子で留まっていない状態になれば違和感が生じます。逆に、いつもボタンを外していたとすれば、きちんと留めた時には窮屈で違和感が生じることでしょう。練習が終わったらグラウンド整備するのは当たり前、土のついた自分の道具を手入れするのも当たり前です。グラウンド整備もできない、自分の道具の手入れもできない選手はおそらく一流の選手にはなれないでしょう。またそのような選手が集まるチームは、おそらく勝てるはずがありません。ところが自分ではグラウンド整備もせず、後輩や他の人にいつもやってもらってばかりの毎日が続くと、それが「当たり前」と感じてしまったりします。道具の手入れをする習慣がなければ、土のついたままの道具をそのままほうっておいても、たいした違和感も感じず「当たり前」になってしまっていることでしょう。「ユニフォームに袖を通した時から試合は始まっている」と伝えたことがあります。ユニフォームに袖を通したならば、身も心も引き締まる着こなしをしていなければなりません。きちんとした着こなしをしている選手は、グラウンドに入る時に「一礼」をして入り、自分の道具をきちんと整理し、0.1秒にこだわってきびきびと動くでしょう。さらに大きな声を出して練習し、グラウンドの中では決して歩かず走って行動し、監督やコーチに指示をされたら気合いのこもった返事をして素早く動くことが「当たり前」になっているでしょう。こうした「当たり前」の習慣がチームの「雰囲気」やグラウンドに漂う「空気感」を創造します。そしてこのような「空気感」が「当たり前」になっているチームは練習に取り組む姿勢も意欲も高く、個々の選手の技術や能力もさらに向上することでしょう。気持ちのよい挨拶が交わせ、心のこもった掃除ができ、仲間を大切にでき、いろいろなことに対する心からの感謝の気持ちが持て、縄手南の一員という誇りが持て、素晴らしいラジオ体操ができ、「縄手南の生徒って凄いなあ」と言って頂けた時、「そんなこと当たり前じゃないですか」と笑顔で会話できるような学校を造って「日本一」を目指したいものです。

今年もお世話になりました。「イキイキひょうたん山！」2018～縄南道の中学校キャリア教育～

縄手南中学校ではキャリア教育体験活動における職場体験学習を5年前より「イキイキひょうたん山！」とネーミングし、駅南側の商店街（ジンジャモール瓢箪山、瓢箪山駅前東商店会）の皆様にお世話になりながら実施しています。今年度は事業所体験、地域清掃活動、吹奏楽ミニ演奏、放送設備をお借りしたFMキャラバッシュに加え「瓢箪山音頭」「スマイル瓢箪山」にも



商店街で瓢箪山音頭を披露する生徒(左)と、地域清掃活動を実施している生徒(右)の場面

も取り組み披露させていただきました。また、縄手南小学校やさくらいこども園での活動も毎年実施しています。目的は、事業所だけの体験学習ではなく、全体の企画、準備、実施を含め、多くの視点から「自分らしい生き方」を見つめ、日頃の学校生活で大切にしている「縄南道」の活動を、学校外でもさらに磨くことを目指してチャレンジしています。多くの方々から生徒の頑張っている姿に対して温かいお言葉を頂きました。来年度は「くすは縄手南校」としての「イキイキひょうたん山！」となります。今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

冬季五輪3大会連続出場 西伸幸 氏をお招きしてお話を伺いました。

10月24日（水）、本校にフリースタイルスキーモーグルでバンクーバー、ソチ、平昌と冬季五輪3大会に連続出場された西伸幸氏をお招きしてお話を伺う機会を持ちました。西伸幸氏は、冬季五輪3大会連続出場に加え、世界選手権デュアルモーグルでは2009年に2位、2011年には3位と、日本のモーグル界をけん引されてこられ、2016年の右膝靭帯断裂という大きな怪我からも見事翌年には復帰された精神力の持ち主でもあります。五輪という世界のレベルで競技をされてきた経験をもとに、多くの「縄南道」に通じることがらを本校の生徒に伝えていただきました。「競技の結果や技術の発揮は、日常の生活の様子に大きく起因する」とお話しされたことや、「多くの方々への感謝の気持ち」をお話しされていたことなどが、とても印象に残りました。ありがとうございました。



西伸幸氏(右)からのお話

10月31日（水）「小中一貫教育推進研究大会」を開催致しました。

縄手南小学校と縄手南中学校は、東大阪市の教育施策の一貫として来年度4月より施設分離型「義務教育学校くすは縄手南校」として新たなスタートを迎えます。開校に向けた準備段階である現在の取り組みを6年生が登校していた31日に、多くのお客様を迎え発表させて頂きました。みなさんご存知の通り、くすは縄手南校の教育理念は、現在の縄手南小学校、縄手南中学校の教育理念を引き継ぎ「～縄南道による～二十歳の成人式に当たり前の行動を当たり前に実行できる人の育成」です。特に「当たり前」という事柄にはこだわり「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を常に意識していきます。「勝因」である「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」を大切にする児童・生徒の様子に来校された方々からもとても良い印象のメッセージを頂くことができました。「くすは縄手南校」は「日本一」の学校を目指しますので、今後ともよろしく願いいたします。

部活動・コンクール・発表会等表彰

女子バレーボール 第52回東大阪市中学校総合体育大会 第3位

バドミントン 第52回東大阪市中学校総合体育大会 男子団体之部 第3位

男子シングルス之部 準優勝 嶋田優輝(8年)

陸上 第52回東大阪市民大会 中学女子3年4×100mR

第1位54”08 (山口真未8年 西山楽夏8年 岡部奈央9年 松本麻捺9年)

柔道 初段昇段 石原大輝(9年)